

令和5年10月5日（木曜日）

建設通信新聞

足立参院議員 国土強靱化のさらなる推進必要

自民党の足立敏之参院議員は、台風13号の接近に伴って9月8、9日に発生した線状降水帯による大雨で、被害を受けた福島県いわき市、茨城県日立市、高萩市を20日に訪れ、被害状況を調査した一写真。土砂災害による重要な道路の寸断や、市街地を流れる中小河川の浸水被害が生じていたとして、「毎年のように被害を受けている箇所が依然ある。防災・減災、国土強靱化をさらに進めなければならない」と訴える。

約1,300戸の住宅で床上浸水被害が生じたいわき市を最初に訪れた。7月に発生した秋田県の大雨水害と同様に、激甚災害

台風13号関連の 被害状況調査



対策緊急事業などが実施されていない中小河川が氾濫していたとして、「中小河川の浸水対策が喫緊の課題」と指摘する。市に対しては、市街化が進展しているエリアの中小河川は河道拡幅などの抜本的な対策が難しい

ことから、国や県と連携しながら流域治水の考え方に沿った取り組みを進めるよう求めた。

続いて茨城県へ移動し、日立市内を走る県道日立山方線や県道十王里見線の土砂災害現場を訪問。地域にとって重要な道路が寸断され、通勤や通学などに大きな影響が生じていたとして、「災害に強い道路構造に転換していかなければならない」と語る。

最後に訪れた高萩市では、河岸浸食や浸水被害の状況について県から説明を受けた。地元建設業者が道路啓開作業に汗水を流す姿も目にし、建設産業が持続できる施策の展開が不可欠との思いをさらに強くしたとしている。